

すごいものを見た

供奉人 埼玉県 小川龍太

すごいものを見ました。

随行教導の太田先生は

「すごいものを見た」とは何を見たのか。

それは、真宗再興を見たのです」とおっしゃいました。

蓮如上人は生きて働いておられます。

真宗再興を歩きましょう。参加するご縁をいただき、ありがとうございます。

南無阿弥陀仏

井波御下向の感想

撮影班 勇崎 晃

浄土真宗 中興の祖 蓮如上人は生涯 歩き

続け、各地で御文を通して分かり易い宗義の普及・正信偈・和讃の開版等、多くの教化の足跡は人々の心に語り継がれ、今日に至って

今回「蓮如上人井波御下向550周年記念

御影道中」撮影班に係わる事ができ、大変

うれしく思いました。

現在 全国にある寺院のうち30%〜40%

が存続の危機に瀕しているといわれ、消滅する可能性がある中で御影道中は、誠に

「真宗再興活動」、喜びに堪えません。

今回の御影道中は、私の知らないことが多々あり、二俣の本泉寺は蓮如上人の叔父 如乗により建立したとのこと。

如乗といえ、本願寺の継承をめぐって蓮如を強く支持し、蓮如を本願寺第8世につかした立役者であり、如乗の没後、蓮如の次男 蓮乗が養子として入寺し、本泉寺は加賀布教の一大拠点としたとのこと。

また、蓮如の清水（福光町宗守）では、

いつも近くを通っているにもかかわらず、知らなかった事等 新たな発見がありました。

そして、御縁を頂き、鶴来別院からたくさんのお参りができ、大変有難かった。

本当に多くのことを発見でき、北陸の「真宗

王国」を再確認するとともに 感激しました。

山本の教念寺では、報恩講料理を頂き、大変懐かしくうれしかった。

11月8〜10日 本山での「推進協全国交流会」参加者の中に、御影道中で御影を載せた御輿車を綱で引いた、金沢市出身の名古屋市の山本智子さんは「先祖代々、徳を頂く蓮如様に接することができとても有難い」と感激していた方とも交流し、交流会 全大会の感話で「北陸版 御影道中」を発表する機会もあり、全国の皆さんに説明し、感話で話しました。井波御影道中講の関係者の皆様へ感謝申し上げます。

ありがとうございます。



井波御下向から得たもの

サポート参加 宝谷隆盛

三つの目的で参加しました。

一つ目は浄土真宗・蓮如のゆかりの場所を

学ぶこと。講師 太田様の会所での分り易い法話はよく理解できて 記憶に残りました。

二つ目は、自らの気力・体力に挑戦しようと思つたこと。供奉人の清水氏から勧められた

ことと相俟つて、自ら86才はラストチャンスと一念発起しました。時速6kmの御輿車の速さにとまどいながら、目的の興宗寺までの24km

を完歩できた事は、かけがえのない私の財産となり、満足感や達成感で一杯でした。

三つ目は興宗寺門徒の一員として微力でも役立てたら、と思つたこと。そのことが力となり、途中の挫折感をのり超えることになりました。興宗寺到着時の門徒衆の歓迎ぶりに感激して、胸が一杯になりました。

最後に、同行頂いた講師・宰領・供奉人・会計・サポートの皆さん、御教導下さいまして

有難うございます。感謝の気持ちで一杯です。今後のご厚情 よろしく願います。

再びのご縁

サポート参加 石川県 山下 佐知子

今年の春、蓮如上人御影道中に一日だけですが、参加させていただきました。

何とか完歩はしましたが、速足で歩くことが苦痛で、もう お供するのは御免だと思つていました。

しかし、井波御下向道中が行われると聞き、供奉人やお供の方々を一つにして歩いたこと、お迎えして下さった地元の方々との触れ合いや温かい おもてなし、とても感動したことが忘れられず、再び 参加申し込みいたしました。

今回の御影道中はゆつくりで 距離も短いため、つらい思いもせずにお供することができました。

近隣でも普段伺う機会がない お寺にも

お邪魔させていただき、各お寺の歴史なども伺うことができ、得難い体験ばかりでした。

これもひとえに お世話して下さった皆様のおかげ、感謝の念が尽きません。

この素晴らしい経験を、多くの方に伝えたいと思います。改めてありがとうございます。

西勝寺さんとの出会い

サポート参加 石川県 坂田甲一郎

昨年までは、今年も御影道中が行われまし
た・・と新聞報道を見て、大変苦勞だな
との思いでした。昨事元旦の、能登半島地震で被災した西勝寺本堂の「絵像」を御影にと
正式に決まったとのことで、私の母と西山住職の祖母が、輪島生まれで 大切な友人との縁もあり、今回の道中の参加となりました。9月28日、天狗橋から、多くの門徒さんの手で

御輿車が鶴来の町中を通り、鶴来別院の鐘楼の
ゴーンと響く鐘の音での無事到着です。

9月29日は、ごかいさのお墓(親鸞聖人
生鹵塚)へ、別院からは大勢の人達に見送られ、
鶴来を出発です。供奉人さんの「蓮如上人さま
のおとーり」と高く澄んだ声のもと、御櫃を
担がしていただいたのも良い思い出となりました。

11月4日には、有志の方々により「能登版
御影道中」も実施され、西勝寺に到着です。
御輿車の絵像も門徒の皆さんに迎えられ、講頭
の太田浩史住職により「帰山式」と法話、西山
郷光住職のお礼の言葉で、石川・富山両県での
御影道中も無事終えたようです。私と妻も式に
参加でき感謝とありがとうございました
との思いです。

西山住職の祖母、西山暁子さんも帰山式には
参加できなかったのは残念でしたが、無事
終えた事に感謝をしていました。

今回、初めての蓮如上人「井波版御影道中」

が企画され、実施と大変な御苦労をされたと思
います。

講頭の太田浩史住職さんをはじめ、道中に
携わった皆さん、大変お疲れ様でした。

初めての蓮如上人「井波版御影道中」

- 時期と日程表
- お立ち寄りのお寺の選点・お願い
- ルートの決定と道路状況の確認

※車社会につき、道路使用許可も難しかった
のでは・・・

- 関係各位への打合せ・お知らせ
- ・ チラシの配布など
- ・ 道中サポートの申込
- など、準備・お世話と御苦労様でした。



蓮如と歩き、蓮如にあう

サポート参加 愛知県 阿部泰郎

加越の境を成す谷間、二俣の本泉寺で御影
道中を待ち受け、その晩から一行に加わって
山越えの道を蓮如旧跡を巡りながら砺波平野に
下りた。井波までの御下向と、御上洛の城端、
大福寺までの、いわば美味しいところ取りで
歩かせて戴いた。実際、何処でも美味しい御齋
を頂き、とりわけ報恩講の御齋の御膳が出され
たのは感激だった。その他全てに心遣いが
痛む足に沁みた。初めて道中を共にした方々と、
旧知の別院ゆかりの皆様とも、始めて出会い
直すような機会を、「蓮如様のお通り」を通じて
頂いたのである。毎年の太子伝会と虫干に慣れ
親しんだ南砺の風光は、歩きながら全く
異なった相貌を見せてくれた。何より、
太田浩史師が先頭に立って率いて歩く姿は、
さながら蓮如の如くであったが、私には西行に
見えた。その姿を追いつつ、足を引き摺り
ながら綱を手繰って歩む道は、私の永い探究の

旅を新たに照らし出し、再び生き生きとした世界に変えてくれた。帰ってから、蓮如の御文を蓮崇の御文集で読み直し、その豊かな世界に驚愕しながら、深い感動に包まれている。

わっしょい、わっしょい

送迎車両 富山県 梨谷真嗣

道中の車移動の送迎係りをさせていただきました。

9月29日、二俣本泉寺に到着、本堂へ行くには急な坂を登らなければなりません。

「これは難しいやろ、御輿車は坂の下に置いて、御影だけお連れすれば」

と内心思っていました。でも登るそうで、みんなでリヤカーを押すのですが、なかなか重たい。その時どこからか「わっしょい、わっしょい」の掛け声が、するとみんなで「わっしょい、わっしょい」の大合唱、御輿車は軽々と進むのでした。みんなで蓮如さんを

御輿車ごと本堂にお連れできました。

10月4日高木場御坊跡、今度は雨の中を御輿車をみんなでトラックに乗せます。これは坂道を登るのと違い、重さが直に体にきますので死に物狂い、心の中で再び「わっしょい、わっしょい」です。

「わっしょい」を『広辞苑』で調べると

「重いものを大勢でかつぐ時の声」とあります。

真宗の重い歴史を「わっしょい」の掛け声のもと、みんなでかつがせていただきました。

道中での出会いと感動が宝物

サポート参加 富山県 松本よしみ

春の蓮如上人御影道中に最終日、福井東別院から、あわら市吉崎御坊まで参加し、たくさん提灯・信者さん達のお出迎えに感動し、今回は地元でもあり、井波御下向に参加させていただいた。

金沢二俣本泉寺7時に出発し、秋晴れの中、県境あたりの道の駅で店のおじさんが

取れたてのリンゴを切って、皆にふるまってくさり、その甘酢っぱい味に元気をもらおう。

登り下りやカーブの多さに「ヨイショ!

ヨイショ!」の掛け声で蓮如様と一体となり、

上人自ら携わり金の仏像を造ったとされる

「たたら場」をめぐる、後で光徳寺を拝観し、感動する。

国宝勝興寺発祥の地土山御坊跡では多勢の人の出迎えがあり、念仏も心にしみる。

南砺市教念寺では、お寺の奥様はじめ、

お手伝いの皆様達手づくりの報恩講料理の

やさしい味に癒され元気が出る。親鸞聖人が

好きだったという小豆の入った根菜が満載の「いとこ煮」は絶品だった。

どこの会所でも、地元の人、門徒の人、今摘んだばかりの庭で咲いていた一輪の花を

手向けて下さる人。皆様、手を会わせて、

出迎え、見送りがあり、元気をもらおう。

蓮如清水に立寄った時、亡母から教わり、訪ねたこと、「蓮如忌には、土山御坊へ行く人達の列が切れないくらいだった」と聞いており、それを思い出しながら、亡母と一緒に歩いてる様な気持ちになった。

旧井波駅舎に着くと、知人・友人、多勢の出迎えがあり、うれしさに、汗と涙でビッシヨリになった。

ぜひ 来年も能登への道中に参加したいと思っています。

金尾誠一は御影道中に何を見出したか

サポート参加 富山市 中田 秀芳

私の同級生、金尾誠一は井波御下向に供奉人として蓮如上人にお供することなく

6月10日に急逝した。

彼は吉崎と本山との御影道中の供奉人

6〜7回、幸領も2回され、井波御下向も

太田住職と共にご奉仕する矢先で会った。彼は

日本山岳会 富山支部に所属し播隆上人(槍ヶ岳の開山者)の研究や富山良寛会の副会長として活躍をしていた。私はそんな彼の素晴らしさを最近になって気づき彼の後ろからついていくようになった。大福寺さんの御影道中に参加させていただいたのが今回の御縁となっている。私は今回の井波御下向に参加して 彼が御影道中に何を見出していたのかをこの身体で体験したいと思った。

彼は「道」を追求していたのではないか？

道には二つの意味があります。一つは目的地のための道、もう一つは人の生き方や守るべき

道徳です。播隆は修験道としての道を開き、

良寛は人の生き方の道を教えています。

人はなぜ道を歩くのか、なぜ道で祈りを

捧げるのか。道を歩くには、師、先達、同朋が

大切です。仏道は歩く事だと思えます。今回の

井波御下向はそれを教えてくれました。彼の

遺影と共に同朋二人の道中でした。

彼のおくやみ広告の裏面に掲載された同日の歌

山上で花や鳥の名語るとき星座教えし友
星となる

井波御影道中参加して

サポート参加 富山県 中井松子

私は、2日間参加させていただきました。

昨年4月28日に大福寺で御影道中を平日経験している。

「今年は吉崎から井波までの道中を予定して

ます」って言われていたので、心構えと期待が

あった。

歩いたことで私はさらなる感動を得たので

あった。

本物の蓮如上人が書かれた普段見れない絵姿を

拝見させていただけた。

蓮如上人が550年前に歩いた道を自分も歩いた。

御影をみんなでひいていくことで参加している人たちとの一体感を感じ取ったのである。浄土真宗がこの地域の人々の心に根づいているのを肌で感じた。

蓮如上人が歩いた軌跡・歴史を住職のお話で深めることができた。

普段は車で走っているときには、見えないものが歩くことで見えたり新たな発見にもつながった。

これから先こんな経験がないと思う。私の心の1ページとなった。

またこのような機会があれば参加したいと思います。

蓮如様のおかげでよい経験をさせていただきました。



井波御下向に参加

サポート参加 富山県 西村愛子

2025年10月1日南砺市法林寺 光徳寺から「蓮如上人様のお通り」と言いつて歩いていと道中 たくさんの人々が お花を持ってこられ 手を合され お参りされる姿に胸が熱くなりうると涙が。

井波に着くころには、すっかり晴れ上りました。

旧井波駅舎から瑞泉寺門前の町中が大勢の人々で驚きました。

途中 御輿車から御輿に移され、御輿を担いで瑞泉寺へ。

本堂前には僧侶や人々が並んで、御影を

出迎える姿はなんとも言えない光景に感動。

「550周年記念御影道中」蓮如上人様と一緒に歩けた事に感謝。私の人生で忘れられない宝物です。



蓮如上人井波御下向を終えて

井波別院 二十八日講副講長 箭原健作

蓮如上人が福井県吉崎御坊から、井波別院瑞泉寺に御下向されて三度目の550年前

当時 如何なる様子で、何人のお供であったか当時の記録された記事があれば、拝見したい。

今回はご本人の御影（絵像）が瑞泉寺に御下向されました。

2025年(令和7年)10月1日 秋晴れのもと、待ちに待った井波御下向であった。

真教寺 寺子ごども園前で、新聞記者から御下向の想いを聞かれ「550年前に先祖が蓮如さんを迎えたことに想いをはせ 感無量です」と応えた。

記事が記載された後日、本当に私の先祖が当時 蓮如上人に会えたのだろうか？

大丈夫、我が先祖も参詣ご拝礼していたであろうと、思いを心に修めた。

瑞泉寺では1日〜3日 恒例の報恩講 厳かにお勤めが行われ 多数の参詣者で、御堂は

溢れんばかりでした。

10月3日も秋晴れ、御帰山の儀式も厳肅に行われ、太子堂にてお勤め後多数の参詣者に御見送りされて、瑞泉寺を後に。

予定通り10月7日吉崎別院に無事到着されました。

この度の御下向事業に関し、多数の関係各位のご協力ご苦労様でした。合掌

蓮如上人井波御下向

井波別院 二十八日講 小牧幸子

昨夜の雨も止み、瑞泉寺報恩講に合わせ、十月一日正午に、別院に到着されました。

私は、「よいとこ井波」まで、御迎えに行きました。多くの人々が揃ってお出迎えされ、向こうから来た御輿車から、別院の御輿に、御影が移し変られて、私達はその御輿にお花を飾りました。若い彫刻家の方々が担がれ、御輿が瑞泉寺に入って行きました。

私はいつの日か吉崎御坊から共に歩く夢がありました。実現出来ませんでした。三月から、井波御下向の話で聴き、嬉しく待っていました。

朝夕のお勤めには「お釈迦様、目連様、法然様、親鸞様、蓮如様、綽如様、一如様、闍如様、七高僧様」と呼び掛けて読経を行っています。

赤尾の行徳寺さんへも御礼詣に行き、蓮如上人の名号・お文様、道宗さんのお文様を見て感動しています。

太田講頭様が、蓮如上人の御姿と重なり、その太田講頭様と目が合い、ただただ感謝の仏恩報謝となつて、合掌をして、涙で胸が一杯になりました。三日の御帰山の折、奥の間で明るい光の元で、太田講頭様の御話を拝聴させて頂きました。

お世話下さった多くの皆様、有り難とうございました。

南砺市の多くの寺院が末長く栄え、念仏の輪が(土徳の精神)が広まって行く事を願って居ます。合掌

尊き事を大切に譲り伝えられて

井波別院 二十八日講 山田和枝

私が初めて蓮如さまのお名前に会ったのは、岩倉政治の「行者道宗」を読んだときでした。

毎日お勤めしている御文さまが蓮如さまがお作りなされたと知ったのは、瑞泉寺で

ご法話を聞いてでありました。もう五十代になつていたと思います。祖母や母を真似てお内仏のお給仕はしてりましたが、所作を真似ていただけです。以来、ご法話を聞くことの大切さを、何度聞いてもその都度思います。

母亡き後、六年後に父が認知症を発症して、退職して在宅介護を余儀なくされましたが、初めの頃は目を離していられる時間もあつて、ご近所に、瑞泉寺の歴史や聖徳太子様に、

とても強く心を寄せておられるご夫妻があり、訪ねていくといつも、それはそれは熱く語って下さいました。ある日、吉崎へ行つて、三〇〇年以上も続いている蓮如さまの下回道中にお参りしようというお誘いがありました。でも、介護度四にまでなった父のそばを離れるわけにはいなくて、残念がる私に、ビデオを撮ってきて下さって・・・それから二〇年。

能登に お在したご寿像が吉崎から井波へご道中されるという。

二〇年前に誘って下さったご近所のご夫妻はもうご還浄されていて一緒に迎えてできないけれど、心のなかの お二人と共に お輿の後ろの綱につながり、旧駅から真教寺さんまで 胸が いっぱいになりながら歩きました。溢れるほどに捧げられた お花、沿道いっぱい合掌で迎えておられる大勢の人々、門前で お乗り換えられた お輿が、凜とした揃いの法被と普笠姿の衆に担がれて

進まれていく参道、そして、お御堂の板縁に正座されてうやうやしくお迎えなされている輪番様のお姿、感動し、尊き事を大切に護り伝えられていると思う、感謝の気持ちだが、思い出すごとにまた胸を暖かくしています。

環境日本学の観点による

蓮如上人井波御下向550周年記念御影道中の調査結果

総合地球環境学研究所

上廣環境日本学センター特任准教授

理学博士 秋山知宏

統合学としての新しい環境日本学を構築するために、蓮如上人井波御下向550周年記念御影道中に着目した調査を行った。
太田浩史住職(富山県南砺市 大福寺)や藤原猶真住職(愛知県一宮市 西恩寺)らへの聞き取り調査の結果、以下の五点が確認された。

第一に、蓮如上人井波御下回道中は、単に御影を運ぶ行事ではなく、生きた蓮如上人、すなわち「親鸞聖人再興」の力を運ぶものであり、命の再生を体現する行事と捉えられている点である。多くの参加者が「すごいものを見た」と語ったのは、この親鸞聖人再興の姿であり、能登の被災地を励ましたように、道中が地域の土徳を呼び覚ます公共事業として機能したことを示している。

第二に、今回の蓮如上人井波御下向550周年記念御影道中は、参加者が減少していた従来のものとは異なり、蓮如上人が実際に歩んだ「原体験」を追体験できる新たな意義を持つものであった。事前周知が十分でなかったにもかかわらず予想をはるかに超える参集があったことは、蓮如の力による奇跡と受け止められ、北陸における戦後最大の仏事として認識された。

第三に、過疎化や災害で崩壊しつつある地域社会に対し、御影道中が変革の契機となり得ると認識されている点である。これは奈良時代の行基の活動に観るような社会を創造する大乘仏教の実践であり、いわば「公共事業」と同等の役割を果たすものと理解されている点である。

第四に、1961年の親鸞聖人七百回御遠忌に際し、当時の仏教界を代表する鈴木大拙・曾我量深・金子大栄の各氏が京都・比叡山に集って、人類社会の方向性について討議したことの意義があらためて確認された。

第五に、真宗大谷派第26代門首で物理学博士(サンパウロ大学)である大谷暢裕師ならびに次期門首で場の量子論の数理学博士(サンパウロ大学)の大谷裕師との共働の可能性も展望された。

御影道中で目の当たりにした

「蓮如上人のスピード感」

富山県 大泉寺 釣 章子

衰退していた本願寺教団を再興し、一代で浄土真宗の基礎を築かれた「中興の祖」蓮如上人。吉崎を拠点に「真宗王国」と呼ばれる強固な教団を築きあげられた上人が、北陸にご滞在された期間はわずか4年。通信機器も無い時代、短期間でどのようにしてその偉業を成し遂げられたのか常々驚きと関心を抱いていた。

今回、井波御下向記念御影道中に参加して大変驚いたのは御影を乗せた御輿車を引く方々の歩行速度。通常の歩行速度は時速約4キロに対し、御影道中の速度は時速約5〜7キロ。これは蓮如上人の歩くスピードを再現しているとのこと。熱心な門徒と共にスピード感を持つて布教活動されたことが、北陸の教線拡大に繋がった要因の一つであるということをお目撃し、御影道中を目の当たりにして確信した。

蓮如上人の迅速な行動に倣い、今後仲間の住職方と布教活動を精力的に進めていきたい。

「金尾誠一さんの奥様からのお手紙」

金尾志津子

拝啓 朝晩めつきり寒くなりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

今回の御影道中が盛大に行われました事にうれしく思います。無事吉崎別院に到着され、関係者の皆様にとりましては、大変お疲れ様でございました。心より感謝申し上げます。私は10月1日に旧井波駅舎前にて御輿車をお迎え致しました。手を合わせると自然とこみあげるものがありました。本来ならばこの場に夫がいるはずだったのに残念でなりません。

たくさんの方が花をささげ、手を合わせる姿を見ました。お忙しいと思い、言葉かけの控えさせていただきました。



富山新聞の記事にて、様子を伺い、仏壇前に新聞を置きました。夫と高専で同級であった中田秀芳さんからも様子を伝えてもらいました。夫のことにふれてお話をしておられたとのこと。大変ありがとうございました。皆様の、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。

令和七年十月二十日



中央で、^{たすき} 幸領の赤い褌をかけておられるのが 金尾誠一さん です。

2023年 第350回御影道中 御上洛 での 写真です。